

鹿野ちゃれっじ
「果樹の里山プロジェクト」
地域と大学がつながるを鹿野から考える



大阪国際大学
国際教養学部 国際観光学科
久保由加里 研究室

3年 武宮史泰・與那城日南楽
2年 徳田瑞穂 1年 松原杏

報告者：與那城 日南楽 （＊学年表記については、2020年3月31日時点で作成）

1. 「鹿野ちゃれっじ」とは
2. これまでの流れ
3. 2019年度の活動目標
4. 活動実施報告
5. 活動の成果と課題
6. 2020年度の活動目標

1. 「鹿野ちゃれっじ」とは



- ・ J R 山陰本線浜村駅から車で約 1 5 分

- ・ 鳥取市街からは車で約30分

鹿野町とは



- ・ 緑豊かな山々に囲まれた水田畑地が広がる地域

- ・ 戦国時代の鹿野城主、亀井茲矩によってつくられた城下町地区では、400年の伝統ある「鹿野祭りの似合う町」をテーマに、古民家が立ち並ぶ統一感ある町並みが魅力。鳥取県『県民の建物100選』に選ばれ、行政と住民によって保全されている。



1. 「鹿野ちゃれっじ」とは

「鹿野ちゃれっじ」とは

鹿野町の強みであるまちづくり、演劇、農業の3つを生かした、体験と人とのめぐりあいを五感で楽しむプロジェクトとして誕生した観光交流事業。

チャレンジ(challenge)
+カレッジ(college)
の造語。



2014年 鹿野ちゃれっじを久保ゼミが検証

⇒ 2015年 農をクローズアップした「果樹の里山プロジェクト」に

1. 「鹿野ちゃれっじ」とは

「果樹の里山プロジェクト」とは

鹿野町・河内地区の耕作放棄地を「果樹の里山」へ。

「果樹の里山をデザインする」をテーマに、人々が行き交う空間づくりを目指している。



- ・世帯数:88
- ・人口 : 182
- ・高齢化率 : 56% (令和2年6月現在、鳥取市役所調べ)
- ・鷲峰山や河内川、法師が滝、棚田など豊かな自然に囲まれた魅力ある地域

〈地域の現状と課題〉

- ・地域の過疎化・高齢化の進行
- ・公共交通機関が減便され、日用品や食料品の購入、医療機関への通院等も不便になっている
- ・空き家の増加
- ・農地を維持管理する集落営農組織の育成が十分でない
- ・耕作できなくなる農業者が年々増加しており、耕作放棄地も増加する一方にある

1. 「鹿野ちゃれっじ」とは

「果樹の里山プロジェクト」とは

鹿野町・河内地区の耕作放棄地を「果樹の里山」へ。
「果樹の里山をデザインする」をテーマに、人々が行き交う
空間づくりを目指している。



河内の耕作放棄地
(2014)



OIUによる果樹の
苗植え (2015)



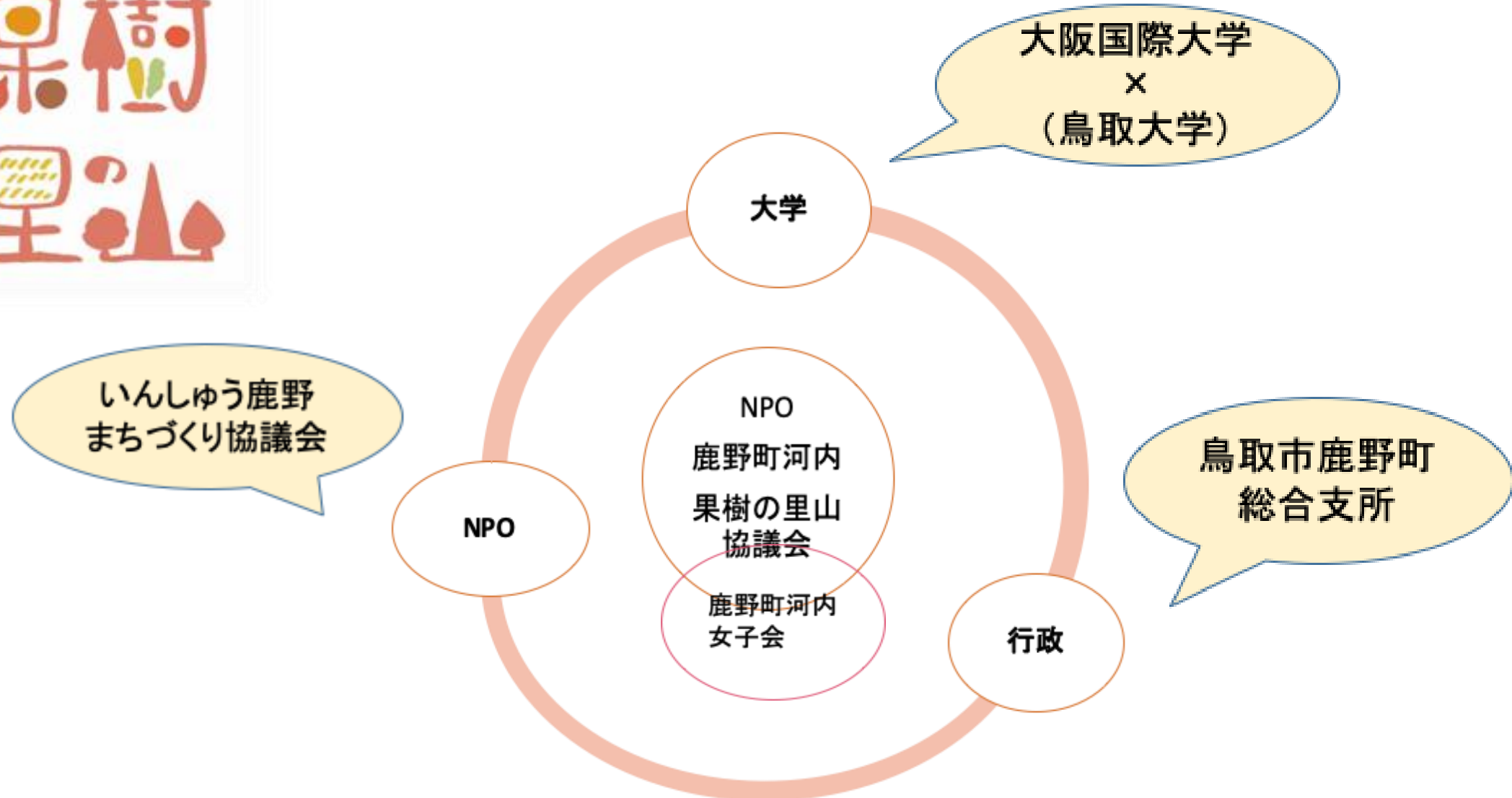
耕作放棄地を
「果樹の里山」へ
(2018)



イベント開催
(2019)

1. 「鹿野ちゃれっじ」とは

「果樹の里山プロジェクト」関係メンバー



2.これまでの流れ

鹿野町×OIU 地域づくりまでのプロセス

交流



来訪者と地元の人が交流し
また訪れたい空間を目指した

スタートした当時は、河内地区の有志の方々が、大学生との関わりに壁があった

バーベキューなどで信頼関係を築くことから始めた

協働



学生たちは果樹の里山メンバーから、苗植えや道の整備のやり方を
教わりながら共に作業をした

新しいものを作り出すための環境づくり

共創



地域の方だけでなく
行政の方と今後の方針を話し合い（産官学ミーティング）
活動計画を立てていった

3.2019年度の活動目標

平成31年度総務省「関係人口創出・拡大事業」モデル事業に採択され、観光農園・体験農園が可能な【鹿野町河内果樹の里山】を推進するため以下の3つのテーマを掲げた。

1.河内だけの体験や魅力、価値を生み出す

- 女子会、体験ツアーを継続的に企画

2.果樹を利用した多様な商品化を進める

- 都市へのPR、商品の販売ネットワーク構築

3.河内を知ってもらうための情報発信

- 地域を知ってもらうきっかけづくり

2019年度 活動スケジュール

	活動内容
3月	鳥取市鹿野町の暮らし体験ツアー 企画・運営
4月	FM-HANAKO ラジオ出演 大阪国際大学でいちじくジャム販売
8月	官民学ミーティング、フットパスルートの検証
9月	公募説明会・しかのマルシェ
10月	NHK鳥取放送局 「とっとり深ボリ」に出演 大阪国際大学留学生ツアー 企画・運営
11月	鹿野河内秋の里山ツアー 企画・運営

4.活動実施報告

1. 河内だけの体験や魅力、価値を生みだす

「鳥取市の暮らし体験ツアー」企画・運営

2019年3月22日～24日



- 移住に関心のある方々を公募
- 城下町フットパス※
- 河内地区
山菜採りフットパス※
- イチジクジャム作り
- 全6組の家族が参加

4.活動実施報告

1. 河内だけの体験や魅力、価値を生みだす

「秋の里山ツアー」企画・運営

2019年11月22日～24日



- 法師ヶ滝フットパス※
- 竹ご飯・河内のけんちゃん汁・焼き芋作り体験
- 果樹の里山見学
- 計10名が参加

4.活動実施報告

「秋の里山ツアー」の様子



4.活動実施報告

1. 河内だけの体験や魅力、価値を生みだす

「大阪国際大学 留学生ツアー」企画・運営 2019年11月17日～18日



- 夢こみちで和食
- 法師ヶ滝ウォーキング
- 焼き芋体験
- 果樹の里山見学
- 鹿野町城下町 **フットパス※**
- 温泉、盆踊り体験
- 女子会
- 鳥取砂丘

4.活動実施報告

フットパスとは

英国を発祥とする"森林や田園地帯、古い町並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径【Path】"のこと。 (日本フットパス協会HPより)



(Walkers are Welcome HPより)

- ・英国におけるフットパスは、パブリック・フットパス（Public Footpath）と呼ばれる。これは長い歴史を経て市民が得た、法的に「歩く権利」が認められた公共権利通路である。

- ・このコンセプトを取り入れたフットパスによる地域づくりが日本各地で行われている。

フットパスによる地域づくりとは↓

フットパスとは 日本におけるフットパスによる地域づくり

- ・ 持続可能な観光が注目されている今、地域に負荷をかけない観光が求められている。
- ・ 自然環境を観光資源として、そこで交流や体験の付加価値を創造し、滞在型観光を推進するフットパスによる地域活性化が拡大している。
- ・ フットパスルート導入の特徴として、交通インフラや施設整備への大きな負担がないため、地域活性化の有力な手段と考えられている。



鹿野町河内地区における留学生ツアーでのフットパスウォーク

4.活動実施報告

2.果樹を利用した多様な商品化を進める

大阪国際大学でいちじくジャムの販売開始



販路とその数量

〈青果〉

さつまいも 給食センター 17,724円

いちじく、栗、かぼちゃ 鹿野町内のおもしろ市 144,946円

〈ジャム〉

鹿野町内 2019年度 おもしろ市30個 ゆめ本陣・しかの心
250個

鳥取市内 2019年度 ローランドマーケット20個

大阪府 2019年度 大阪国際大学60個 麒麟のまち60個

東京 2019年度 さんさき坂カフェ 20個

その他 2019年度 50個 お土産、視察に来た方へ。

4.活動実施報告

2.果樹を利用した多様な商品化を進める

表：年度別果樹植付数

種類／年度	2015	2016	2017	2018	2019	計
いちじく	75	130	56			261
栗	60	81	22	29		192
柿	40	72				112
りんご	33					33
すもも	0	70				70
アーモンド	10					10
ヘーゼルナッツ	10					10
レモン		6				6
サルナシ		4				4
ポポー		6				6
プルーン			20	20		40
キーウィ					20	20
計	228	369	98	49	20	764

4.活動実施報告

3.河内を知ってもらうための情報発信

鹿野町移住定住公募説明会「しかのマルシェ」運営（大阪市） 2019年9月

2019.09.07
For Artist!
For Freelancer!
and more

TALK
&しかのマルシェ
at タツタビル地下室

アーティストが
地方を拠点に
する理由

地方で表現活動を生業とし暮らしている人々が
なぜ鳥取市鹿野町を拠点にしているのか？生活のリアルは？
鹿野芸術祭の取り組みについてなど、トークします。
鹿野の美味しいものも持っていきます！

鹿野と関わってくれるあなたを公募します

2019.9/7 sat.
会場：タツタビル地下室
大阪市北区天満 3-4-5 タツタビル 地下室
入場無料 / 予約不要

公募説明会 13:30-15:40

- ・鹿野ってどんなまち？
- ・いろんな活動をご紹介します
- ・鹿野を拠点に活動するアーティストトーク

個別相談会 16:00-17:00

- ・どんな風に滞在できるの？
- ・仕事を持っていく？仕事をつくる？

主催：鳥取市、NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会

＼わたしたちがお話します／

トークゲスト / 画家 藤田美希子

千葉県出身、多摩美術大学絵画学科油画卒業、ライブアーツと視覚芸術アカデミーブックアート科イラストレーションクラス専攻生（ドイツ）、ミュンヘン造形芸術大学ディプロム取得。2016年鹿野町へ移住。

進行 / イラストレーター ひやまちさと

鳥取県出身、チャタリー view イラストコース7期。イラストレーションとデザインの仕事でフリーランスでやりながら、2018年鳥取県鹿野町へ新しい拠点をもち、2019年「gallery cafe ふく」を開業。大阪と鳥取の2拠点を動いています。

しかのマルシェ

参加予定の美味しいもの
果樹の里山 いちじくカフェ、AKARI Brewing クラフトビール、新沼さんのキノコ、採れたて野菜たち、かりんぼう、城下町のパン屋さん一輪車、など！

鳥取市
鹿野町



同時開催
しかのマルシェ
鹿野から採れたての
美味しいもの
持っていきます。

鳥取県鳥取市鹿野町は、人口が約3600人の小さな町です。大きな麓峰山の裾野に里山が広がり、町の人々が大切にしている風情ある城下町があります。近年、排作放棄地を果樹の里山へと再生するプロジェクトや、ローカル酵母を使ったクラフトビール作り、専用の劇場を持つ鳥の劇場の演劇祭、鹿野芸術祭など、小さな町とは思えないほど、いつも鹿野は何かやっているとあわと言われています。食育のこと、暮らすこと、芸術文化に触れること、それをみんなが同じフィールドで動いている。すごく面白い町なんです。都会にいるみなさんにも、この面白さを伝えたいし、なにより一緒にちやっとやってみませんか、ということ、ぜひお立ち寄りください。

- ・ 地方を活動拠点としているアーティストのトークショー
- ・ 河内のいちじくジャムなど鹿野の食べ物を販売またカフェ
- ・ 果樹の里山についてのポスター発表

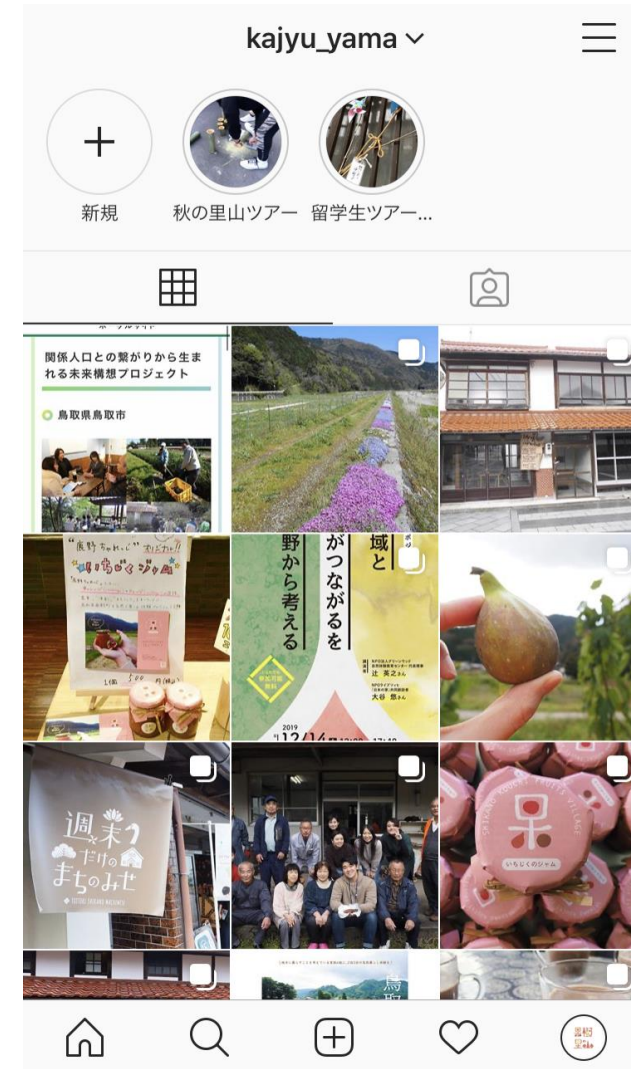
4.活動実施報告

3.河内を知ってもらうための情報発信

果樹の里山公式インスタグラムを開設



Instagram@kajyu_yama
こちらから御覧いただけます



4.活動実施報告

3.河内を知ってもらうための情報発信

FM-HANAKOラジオ出演 2019年4月



日本海新聞掲載

2019年4月



4.活動実施報告

3.河内を知ってもらうための情報発信

NHK鳥取放送局「とっとり深ボリ」出演 2019年10月

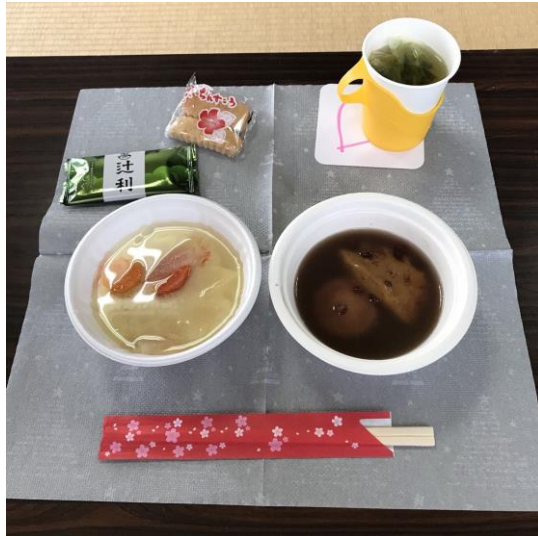


活動の成果

- ①住民を巻き込む仕掛けづくり
- ②新たな観光交流空間の創出

5.活動の成果と課題

成果①住民を巻き込む仕掛けづくり：**女子会の開催**



地域の人が非常に閉鎖的で、
果樹の里山協議会に携わっていない人が活動に関わるのは、
ほぼ不可能に近かった



その状況を打破するための
女子会開催を企画

「地域活性化のためには、女性ならではの意見・知恵が必要」



一軒一軒チラシを配り
女子会の開催が実現

5.活動の成果と課題

成果②新たな観光交流空間の創出：留学生×女子会のコラボレーション達成



- ・女子会と留学生とのコラボが実現し、過疎地の河内に国際的な交流空間ができた。

- ・地域の方は女子会を通して積極的に活動に参加するようになった。



- ・留学生は日本の農村地域のことをより深く理解できる場となった。

5.活動の成果と課題

資料：留学生の感想（ツアー後アンケートより）

- ・初めて、温泉に入りました。すごく気持ちよかったです。そして、みんなと一緒にゲームをしたり、和食を食べたり、雨だったけど滝と砂丘に行ったりしました。楽しかったです。

- ・穏やかな雰囲気、地域の方が暖かく迎えてくれた。楽しかったです。本当にありがとうございました。

- ・自然が素晴らしいですが、鹿野の魅力は人です。

- ・おじちゃんたちが焼いてくれたサツマ芋がおいしかった。

- ・女子会で、違う国の人が自分の国について紹介してくれたのはいい経験だと思います。日本の文化と習慣だけではなく、ほかの国の風情も知ることができて面白かった。

- ・とても楽しかったです。食べ物が美味しくて、温泉もステキで、皆さんが熱心で親切でした。

- ・皆と一緒に遊び、地域の方と交流することは楽しかったです。自然に囲まれた鹿野町で、リフレッシュできました。

- ・普段、日本の学生たちと一緒に遊ぶ機会が多くない。このように日本の学生とも交流できるツアーがいいと思います。

- ・自分の地元を思い出す。田舎が好き。

- ・景色や食べ物もよかったけど、一番は地元の人への優しさに触れたこと。

- ・天気は悪かったけど、気持ちは晴れでした。

今後の課題

- 1 河内地区の認知度が低い
→広報活動の拡大
- 2 地域活動を行うにあたって地元住民の参加が少ない
→果樹の里山メンバーの拡大
- 3 果樹の里山の商品に限りがある
→六次産業化を図る

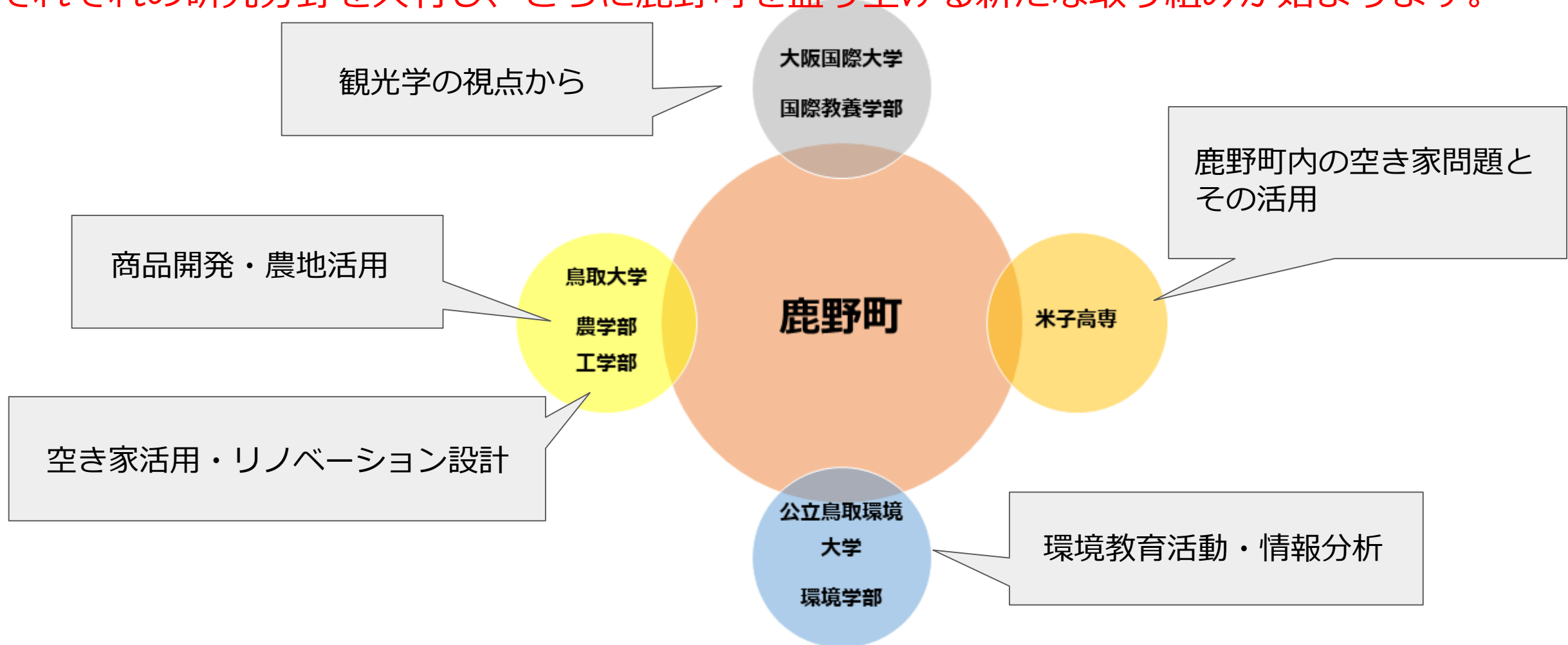
2020年の活動目標

1. 他大学との連携による 新たな地域活動の開始
2. 10月開催「果樹の里山祭り」企画・運営

6.2020年度の活動目標

1. 他大学との連携による 新たな地域活動の開始

これまで鹿野町に関わってきた3つの大学と高専とのコラボが実現しようとしています。
それぞれの研究分野を共有し、さらに鹿野町を盛り上げる新たな取り組みが始まります。



6.2020年度の活動目標

2.「果樹の里山まつり」企画・運営 2020年10月17日～18日 〈内容〉

直販市 いちじく・栗・ジャム・ドライフルーツ

体験 ・ フットパス ・ フロッタージュ
・ イチジクジャム作り
・ イチジク刈り・栗拾い
・ ハナモモ苗植え

〈開催目的〉

果樹の里山を地域の方々に知ってもらう。

これまでの5年間で培ってきたフットパスやジャム作り、いちじく狩り等の体験をこれからのスタートとしてまとめて行う。果樹の里山を今後運営していくうえで、若い世代にも関わってもらえるような発信をする。



7.学生コメント



武宮史泰

少子高齢化、過疎化の問題を身をもって感じました。人々に訪れてもらえるよう、学生目線のアイデア、地域の魅力を活かし、企画・運営を行ってきました。町の雰囲気が変わっても、外からの人を呼び込む難しさを感じました。今年は、コロナの影響があり、鹿野・河内で活動できるかわかりませんが、何か1つでも前に進められるよう取り組みます。



與那城日南楽

よそ者・若者の視点からの地域の魅力を、訪れてくれる人はもちろん、地域内にも発信する大切さを実感しています。この活動に携わらせていただいて3年になりますが、鹿野のまちや人が年々元気になり、地元の方と新たなものを創り上げられていることを本当に嬉しく思います。今後も大学生だからこそできる、地域内外を巻き込んだ取り組みを行い、鹿野のファンを増やしたいです。

7.学生コメント



徳田瑞穂

鹿野ちゃれっじを通して「能動的に行動する大切さ」を学びました。自ら進んで地域の方々に話しかけたり、動くことで交流を深められるだけでなく、鹿野のことについてより知ることが出来ました。今後も自ら動くことを大切に取り組みたいです。



松原杏

私はまだ一度しか鹿野を訪れたことはありませんが、肌で感じた鹿野町の良さは今でも忘れることができません。住んでいる方々が心からその町を愛することで、町と人が一緒に呼吸をしているような錯覚にとられました。そんな町の活動に参加できていることがとても嬉しいです。そして、活動を通して、どんなに小さな町でもとても大きな可能性を秘めているということを実感し、こういった考えが世界中に広まるといいなと思いました。

「果樹の里山プロジェクト」

大阪国際大学生がプロジェクトを楽しんでいる。



2015年の活動初期から大阪国際大学生が力になっています。

国際観光学科久保由加里教授のゼミ生を中心に、2014年からいんしゅう鹿野まちづくり協議会と繋がりが生まれ、果樹の里山の活動に共感し関わって下さいました。毎年3～4回来訪し作業に加わり交流を深め、地域の人々も来訪を楽しみに待っています。

久保教授指導のもとフットパスを取り入れた毎年の留学生ツアー・鹿野町の暮らし体験ツアー・秋の河内里山ツアーの企画運営、学生たちの提案で始まった鹿野町河内地区女子会など地域に新たなコミュニティーと関係人口を創り出しました。果樹の里山の景観作りにも取り組み芝桜1500本、ハナモモ120本も植えています。2020年は「初めての果樹の里山まつり」を一緒に企画しています。

今後も大学生の得意分野を活かし交流、関係人口創出、ツアー企画、情報発信など学生達の行動が地域を変えることを期待しています。

大学生たちが植えた芝桜やハナモモを楽しみ、季節になれば果樹が実り、美味しく食し、里山をのんびりとフットパスを楽しむ。地域の人達が喜んで来訪者を迎える。大学生たちの企画で、地域の人々と外から来る人の心を潤わす、そのような果樹の里山なればと強く思っています。

特定非営利活動法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会 小林 清 氏

5年目を迎えたこの活動において、これまで荒れ果てた耕作放棄地で果樹の実りを楽しむことができるようになり、春にはOIUの学生が植えた芝桜が、川沿いのあぜ道を美しく浮かび上がらせています。

2019年度は、その見える変化を生んだ人と人とのつながりが、確かな信頼関係となり、観光交流空間を創り出した大きな節目の年でした。

ゼミ生たちは、観光学の学びを実践に応用し、行政、NPO、地元住民、移住者、デザイナー、他大学の学生たちとひとつのテーマに取り組んでいます。本年度は春と秋に、それらの仲間たちと一緒に、一般向けの一日ツアーを企画・運営しました。終了後は、仲間たちとの振り返り会議を通して、客観的に課題について考えることができました。ゼミ生たちは、鹿野というフィールドで、目を輝かせて自分の意見を述べ、キャンパスでは決して出会うことのない人たちとの絆をいつくしんでいます。

この活動にあたたかなご支援をいただきましたことを深く御礼申し上げます。

国際教養学部 国際観光学科 教員 久保 由加里



最後に、この活動にご支援をいただいた
地域協働センター並びに国際交流センターをはじめ
ご支援・ご協力いただきました全ての皆様に感謝いたします。
ありがとうございました。

